

## 有効的な情報伝達的手段

有信 真由 木下 花絵 深松 桃香 山下 荘子 山本 彩未

## 要旨

あるテーマについて説明したプレゼンテーションを「動画」、「スライド+音声」、「音声のみ」の3種類視聴してもらい、その内容に関する質問紙調査を行った。その正答率から、音声のみよりも視覚にも訴えられる動画、スライドが有効的な情報伝達手段だと明らかになった。さらに、正答数と問題の内容との関連性を分析したところ、この傾向は具体的にイメージしにくいテーマにおいてより顕著に現れることが明らかになった。

キーワード：質問紙調査、情報伝達手段、音声、視覚

## 1 序論

一般的に何か人に伝えたいことがあるときには、言葉だけでなく、ジェスチャーやアイコンタクトなどを用いて、視覚・聴覚に訴えかけることが効果的だといわれている。そこで、視覚や聴覚からの情報が情報伝達にどの程度影響を及ぼすのかについて調べることにした。

## 2 実験方法

表1の3つのテーマA, B, C, を設定した。今回選んだ3つのテーマは、説明する分野において偏りがなく、得手不得手がない、内容について知っている人が少ない、同じくらいの情報量である、という4つの観点で選んだ。

次に、表1のa, b, cの3つの条件を設定した。aの「動画」では前述の動画を再生し、bの「スライド+音声」ではaの動画内で用いたスライドと動画の音声を同時に再生し、cの「音声のみ」では動画の音声のみを再生した。各説明方法の情報伝達力を比較するため、次の表1のようにテーマと手段の組み合わせを変えて調査を実施した。

表1 テーマと手段

	A アリの科学	B 人との距離感	C シャックリの科学
グループ①	b スライド+音声	c 音声のみ	a 動画
グループ②	c 音声のみ	a 動画	b スライド+音声
グループ③	a 動画	b スライド+音声	c 音声のみ

天城高校2年次の文系3クラスをグループ①～③とし、各クラスのHR教室で調査を実施した。

## 3 結果

質問紙調査の結果、それぞれのテーマに関する問題の正答率は表2、表3、手段別の正答率は表4の結果を得た。

表 2 問題別正答率

テーマ	アリ					人との距離感					しゃっくり				
	問①	問②	問③	問④	問⑤	問①	問②	問③	問④	問⑤	問①	問②	問③	問④	問⑤
動画	75	84	97	97	91	91	94	78	84	84	78	94	78	97	100
スライド +音声	78	86	94	86	86	100	97	78	84	81	86	84	81	97	100
音声のみ	47	69	94	81	84	86	94	72	84	86	72	69	50	91	100

表 3 問題別の全体正答

	アリ	人との距離感	しゃっくり
動画	88.8	86.3	89.4
スライド+音声	86.9	88.1	90.0
音声のみ	75.0	85.0	76.3

表 4 手段別正答率

スライド+音声	88.3
動画	88.1
音声のみ	78.8

## 5 考察

今回の調査で、3つの手段の中では「音声のみ」の正答率が低く、「スライド+音声」と「動画」の正答率には差がなかった。したがって、聴覚からの情報のみに頼る音声のみの場合よりも視覚からの情報も得られる「動画」、「スライド+音声」が情報伝達において、より効果的であると分かった。しかし、仮説と違って「動画」と「スライド+音声」に差がなかったことに関しては、全体的に問題の難易度が低かったことと、「動画」がやや見づらく「スライド+音声」の場合との差別化が上手くいかなかったことが原因と考えられる。さらに、人との距離感について音声のみの正答率が下がらなかったのは、具体的にイメージがわかりやすい内容の場合は音声だけでも伝わることを示していると考えられる。

今回の研究で、情報伝達においては用いる手段によっても情報伝達力に差があることが明らかになった。今後の課題としては問題の難易度が上がった場合や伝える内容が難解になり聞きなれない言葉が増えた場合などに、伝わりやすさに差が出るのかということが挙げられる。

### 【引用・参考文献・参考 Web ページ】

- ・天才ものしり王国：最強の雑学王, p108-109(2012)
- ・小泉十三：子どもの「なんで？」にキッパリ答える本, p52, p53(2012)
- ・心理学入門講座：臨床心理士指定大学院入試対策講座
- ・パーソナルスペース(<http://www8.plala.or.jp/psychology/topic/personal.htm>)

## 日本の教育 韓国の教育

岡 和宏 金平 優人 佐藤 龍一 平光 凌 水川 友裕

## 要旨

竹島に関する日本と韓国双方の歴史教育について文献調査を行った。その結果、韓国と日本の教育にはかなりの認識の違いがあり、双方の教育にかなりの隔りがあることが明らかになった。この結果を基に、今後、双方の教育による認識の違いをなくすことこそが竹島問題の対話での解決、また日韓の対立緩和に向けた第一歩であると提言したい。

キーワード：竹島, 日韓関係, 教育

## 1 序論

最近私達のホームルームに日本地図が設置された。地図の設置目的は緊迫する領土問題に対する我々学生の認知度を高めるためであろう。私達は竹島や北方領土を日本の領土であると認識してきた。一方で韓国国民は竹島を、ロシア国民は北方領土を自国の領土と主張し実効支配している。私達はなぜ双方の意見の相違が生じるのか疑問に感じた。そこで私達は竹島問題において両国の教育に根本の原因があると考え、教育に焦点を置き調査し考察する。

## 2 仮説と調査方法

## (1) 仮説の設定

【仮説】 韓国では竹島(独島)を自国(韓国)の領土とする教育が行われ、日本でも竹島を自国(日本)の領土とする教育がされており、両国における教育の矛盾が双方の対立の原因となっている。

## (2) 調査方法

上記の仮説を証明していくために、以下の項目について文献調査により調査していく。

- ・日本と韓国双方の歴史教科書の竹島に関する記述
- ・日本と韓国双方の相手国に関する印象

## 3 調査結果

まず表1に日本と韓国双方の歴史教科書の竹島に関する記述についてまとめた

表1 日本と韓国の歴史教科書の竹島に関する記述

教科書	日本(詳説 日本史 B 山川出版社)	韓国(高等学校韓国史 三和出版社)
竹島に関する記述	竹島に関する歴史教科書における記述なし	独島を三国時代以来我が国の領土だとしたが、しだいに日本の漁民の不法侵入が増え、露日戦争中に日帝は独島を自分たちの領土として強制編入した。これは国際法上明らかな不法領土侵奪行為だった。  日本は我が国の領土である独島の領有権を主張し、これを紛争地域化しようとしている

次に日本と韓国双方の相手国に関する印象について言論 NPO の世論調査より引用した

表2 相手国に対する印象

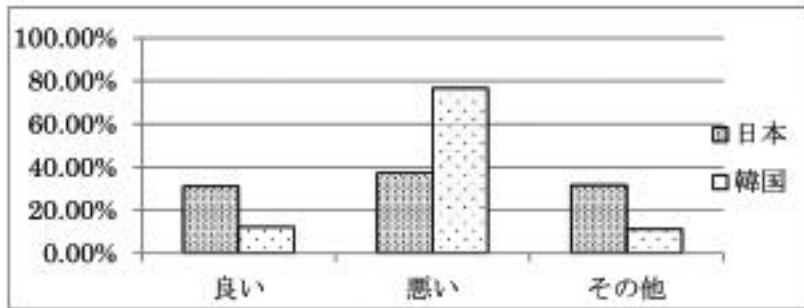
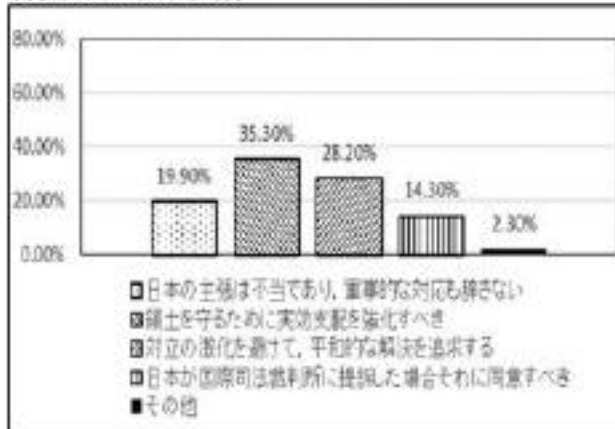
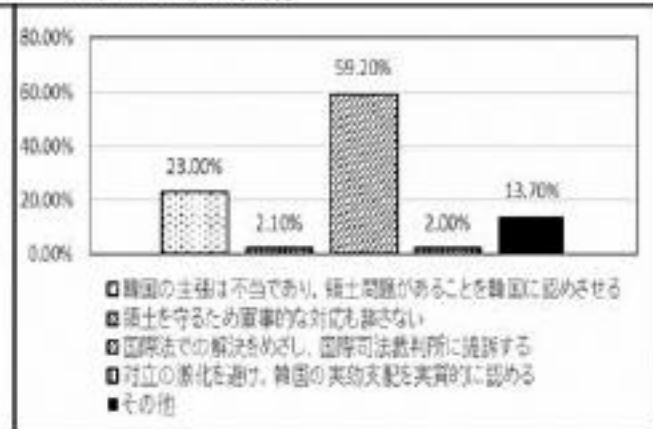


表3 領土紛争の解決方法について

韓国における世論



日本における世論



#### 4 結論

韓国の歴史教科書には竹島に関する記述が多くある。また多くの韓国の学生は「独島はわが領土」という歌を習っている。このように韓国では竹島(独島)を自国の領土だとする教育がなされている。それに対して日本の教科書には竹島に関する歴史的な記述は一つもない。また韓国の教科書には「日本は我が国の領土である独島の領有権を主張し、これを紛争地域化しようとしている」などと誤解が生じるような表現が多く、たとえば先の戦争に関する記述など、についても同様である。その結果が表2のような韓国国民の方が反日感情の高い結果に表れているのだと考えられる。このように、韓国の教育は竹島問題における国際司法裁判所での解決がまだなのにもかかわらずナショナリズムを強く押し出したものであり、対照に日本の教育は竹島を自国の領土と主張している割には少し消極的であると思う。しかし、表6から分かるように意外にも現在実効支配をしている韓国国民の半数近くが平和的解決を求めている。

そこで私たちは、韓国は自国の歴史教育を平和的解決に向けたものにし、日本は自国の歴史教育に多少はナショナリズム的な要素を取り入れてもよいのではと提言する。このような双方の教育における違いをなくすことが竹島問題の対話による対立解消、日韓関係の関係改善に向けた第一歩なり得ると考える。

【参考文献・参考 web ページ】

- ・ 笹山晴生他：詳説日本史，山川出版社(2015)
- ・ 三橋広夫：高等学校韓国史，三和出版社(2006)
- ・ 言論NPO( <http://www.genron-npo.net/world/archives/5246.html> )

## CMに関する認知度調査

藤原 靖也    権藤 智    佐藤 佑司    坂本 太一

### 要旨

CMにおける認知度は著名人や独自のストーリーを使用する事で得られる反面、その方法では商品の説明が不十分になってしまう等の欠点が見られた。

キーワード：CM，認知度，観点

### 1 序論

最近では短い期間で内容を変え、様々な工夫のなされたCMがいくつも見られる。しかしこのように多様化したCMの内容をしっかりと覚えているのだろうかという疑問を抱いた。そこでアンケートによる認知度調査を行い、結果を用いて考察した。

### 2 アンケートでのCMと仮説

アンケートには①著名人の使用、②独自のストーリーの使用の観点から以下の3つのCMを使用した。

CM1 携帯電話会社のCM	(有名人、独自のストーリーともに使用)
CM2 衣料品メーカーのCM	(有名人を使用、独自のストーリーは使用せず)
CM3 飲料水のCM	(有名人、独自のストーリーともに使用せず)

仮説：著名人や独自のストーリーを使用すれば認知度は高く、商品の説明などに力を入れていると認知度は低い。

### 3 アンケートと結果

上記のCMについて、1と2は企業名、3は商品名を高校1、2年生合計264名に回答してもらったアンケートの結果、図1を得た。

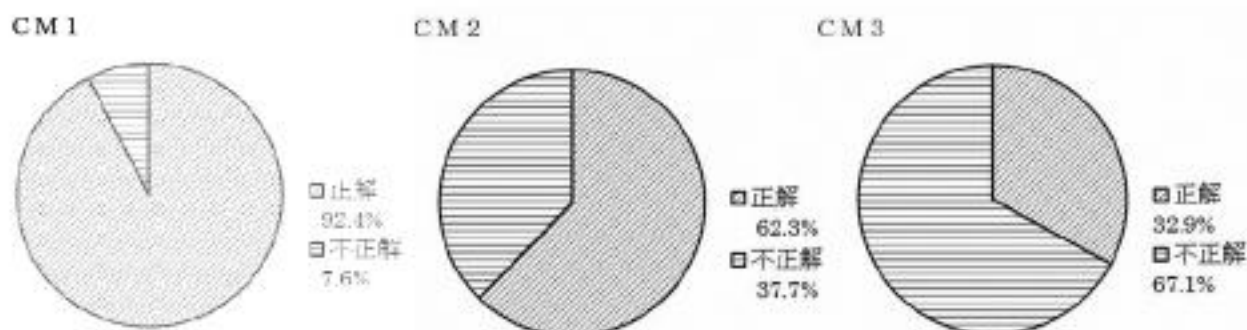


図1 アンケート結果

#### 4 考察

結果は考察の通り著名人や独自のストーリーを使用したもの（CM1）が最も認知度が高かった。この結果になった要因として、よく知らない商品の説明を聞くよりも、単純に1つの物語としてCMを楽しむ事ができるからだと考えられる。また独自のストーリーを使用する事で、同業者のCMとの差別化を図る事ができるため、正答率が高かった。しかし、このような内容のCMは商品等の説明が不十分になり、受け手に与える印象が曖昧になってしまう可能性もある。

次点では著名人を使用したもの（CM2）であった。CM1に劣った理由としては、まず独自のストーリーを用いなかった事。CMとしての完成度はともかくとして、認知されるには商品の紹介よりも面白い話の方が盛り上がるのは明白である。そしてこのCMでは著名人がCM1のように主役ではなく、あくまで「CMの一部」として一瞬しか写らなかった事だ。これでは気付かれにくい、という理由で、いくら著名人を使っても印象には残らないという事になる。

最後に商品の説明に力を入れているもの（CM3）が最も認知度が低いCMだった。このCMは著名人を使わない上、ストーリーがある訳ではなく、どれだけその商品が優秀かをアピールするものである。ただし同じ種類の商品を取り扱う同業者と見分けがつかなかったのか、他2種と比べても明らかに誤答率が高くなっている。

以上より、それぞれのCMにはそれぞれ欠点がある。しかし、今回のアンケートより認知度を上げるだけであれば、「著名人や独自のストーリーを使用する」事で解決すると考えられる。



## 運動刺激の伝え方

熊谷 孝輝 藤原 大輝 福田 大希 廣畑 源城

### 要旨

廣戸聡一氏によって提唱されている4スタンス理論に基づいた4種類の走法を設定し、被験者にそれぞれのタイプに合った走法を指導した前後の50m走のタイムを比較したところ、75%の被験者のタイムが向上した。このことより、一人ひとりのタイプを理解し、それぞれにあった動きを指導することの重要性が明らかになった。

キーワード：運動、4スタンス

## 1 序論

### (1) 実験内容

運動刺激を効果的に伝えるために、4スタンス理論を用いて、被験者（倉敷天城中学、高校生運動部の協力者）をあらかじめ4つのタイプに分類し、4スタンス理論に基づくそれぞれのタイプの走り方を提示し50m走を計測する。その後、タイプ分けした前と後のタイムを比較し、4スタンス理論の効果を調べる。

### (2) 4スタンス理論とは

人間にはそれぞれ生まれつき決まった身体特性があり、それを4種類に分けて解明しようとするものである。この4種類のスタンスは、血液型と同じように先天的に持つもので、先に挙げたガッツポーズに加え、立つ、座る、歩く、つかむ、といった単純な行動でもタイプによって体の形や動かす各部位の順序などが異なる。

## 2 仮説と調査方法

### (1) 仮説の設定

4スタンス理論を用いてその人に合った走り方をすれば、50m走のタイムが伸び、運動能力が上がる。

### (2) 調査方法

上記の仮説を証明するために、以下の手順で実験を行う。

- ① 4スタンス理論に基づきあらかじめ被験者を4タイプ（A1, A2, B1, B2）に分類する。
- ② 被験者にそれぞれのタイプの走り方を指導する。
- ③ 50m走のタイムを計測する。

### (3) 走方の設定

4スタンス理論に基づいて以下の走法を設定した。

- A1・脇を少し開く
  - ・つまさきに力を入れるイメージ
  - ・ピッチ走法
- A2・脇を閉め、腕を体側にまっすぐ振る。
  - ・つまさきに力を入れるイメージ
  - ・ピッチ走法
- B1・脇を閉め、腕を体側にまっすぐ振る。
  - ・かかとを尻に引き付けるイメージ
  - ・ストライド走法
- B2・脇を少し開く。
  - ・かかとを尻に引き付けるイメージ
  - ・ストライド走法

### 3 調査結果

実験結果を、4タイプごとに分けナンバリングしたのち、速くなった人を↑、遅くなった人を↓、変わらなかった人を→で表にあらわした。

#### A1

No,	Time	4	↓	8	↑	12	↑
1	↑	5	↑	9	↑	13	→
2	↑	6	↓	10	↑	14	↑
3	↑	7	↑	11	↓	15	↑

#### A2

No,	Time	4	↑	8	↑	12	↑
1	↓	5	→	9	↑	13	↑
2	↑	6	↑	10	↑	14	↑
3	↑	7	↑	11	↓	15	→

#### B1

No,	Time	4	↑	8	↓	12	↑
1	↓	5	↑	9	↑	13	↑
2	↓	6	↑	10	↑	14	↑
3	↑	7	↑	11	↑	15	↑

#### B2

No,	Time	4	↑	8	→	12	↑
1	↑	5	↑	9	↑	13	↓
2	↑	6	↑	10	↑	14	↑
3	↓	7	↓	11	↑	15	↑

この結果、速くなった人が75%、遅くなった人が18%、変わらなかった人は7%だった。今回の実験では、最も人数の少なかったB2で実験を行えた被験者が15人であったため、他の2つのタイプの被験者も15人ずつに設定し合計60人に対して実験を行った。

### 4 結論

今回の実験で75%の被験者が速くなったという結果が出たため、仮説どおり4スタンス理論にのっとり運動をすると、運動能力が上がるということがわかった。

このことより、同一種目のスポーツをしている人で技術や能力に差が出るのは、そのスポーツについて一つの動き方しか教わらないからではないかと考えた。スポーツを教わる時、たいていの指導者は模範となる一つの動きを生徒に教えるが、これは4分の3の生徒にはやりにくい、難しいと感じさせている可能性がある。したがって、一人ひとりが自分のタイプを理解し、それぞれに合った動きをすることで個人の運動能力が高まり、競技レベルも高まるのではないかと考えた。

【参考文献】4スタンス理論：正しい身体の動かし方、廣戸聡一、池田書店（2007）



## 防犯に対する人々の関心

鈴木 健斗 児玉 直樹 丹後 賢人 山脇 飛輝

### 要旨

犯罪に対しての人々の関心度について、調査、分析を実施した。その結果、人々の犯罪に対する意識や関心は低く、これらの対策がほとんど実施されていない現状が明らかになった。

キーワード：犯罪、防犯対策、メリット・デメリット、文献調査、アンケート調査

### 1 序論

現在、治安が良くなっていると思われがちだが、犯罪が増加しているように思われる。毎日ニュースで報道されているように、多くの人々が傷つき、場合によっては命を奪われている。そこで私たちは、少しでも犯罪を少なくするため、次のことに関して文献調査および天城高校生を対象としたアンケート調査を行った。

### 2 調査

自分がどのような防犯対策を実行しているか、また、自治体が行っている防犯対策、それらのメリット・デメリットを比較し、その中で最も多い5つの事柄をランキングとしてまとめた。

表1 自分が実行している防犯対策とそのメリット・デメリットの仮説

	防犯対策事項	メリット	デメリット
第1位	施錠	外部の侵入がされにくく安心	鍵の紛失があると非常に危険
第2位	センサーライト	分かりやすい	費用
第3位	監視カメラ	証拠が残る	費用
第4位	夜の外出を避ける	危険を回避	外で遊べない
第5位	犬	吠える	死ぬ

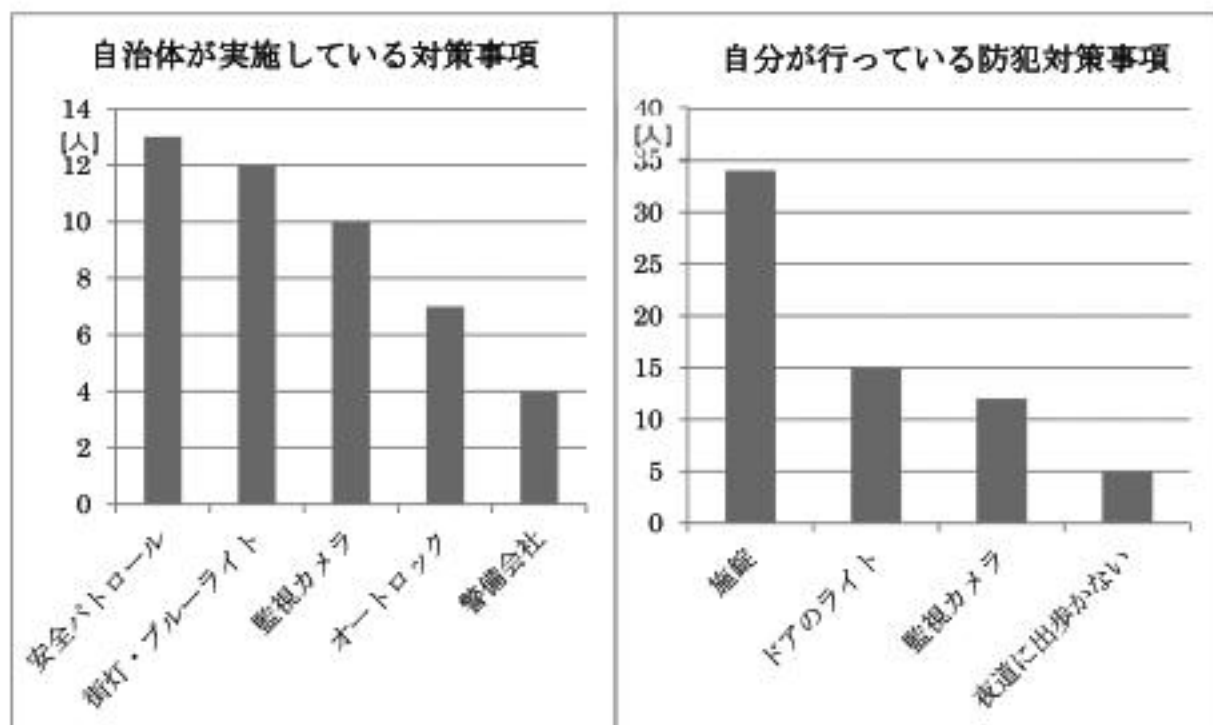
表2 自治体が行っている防犯対策とそのメリット・デメリットの仮説

	防犯対策事項	メリット	デメリット
第1位	監視カメラ	証拠が残る	費用
第2位	安全パトロール	安心	面倒くさい
第3位	街灯・ブルーライト	落ち着ける	管理の大変さ
第4位	オートロック	安心	外出時に鍵を忘れると大変
第5位	犯罪情報配信	人々の関心が高まる	嘘の情報がある

仮説の結果として、自分が実施する防犯対策と、自治体が行っている防犯対策は類似していることが分かった。

### 3 アンケート調査

天城の生徒の人に防犯対策についての意識調査を行い、自分がしている防犯対策と自治体を実施している防犯対策のうち認知しているものを書いてもらい、その中で多かった防犯対策をランキングでまとめた。



仮説とアンケート結果を比較して、ほぼ変わらないことが判明した。それと同時に、これらの防犯対策には必ず費用がかかるということも判明した。また、多くの人たちは施錠することの意識が高いということも明らかとなった。

### 4 結論

私たちは、今回犯罪を少なくするために、防犯対策を人々に調査した。その結果として、さまざまな対策が挙げられたが、考えることは皆同じであるということが明らかとなった。しかし、まだ人々の犯罪に対する意識や関心は低く、これらの対策がほとんど実施されていないことが今の状況である。今回これらを調べるだけで終わるのではなく、防犯というものを自分なりによく考え、1つずつ自分の防犯対策となることをしていくことで少しでも犯罪を少なくしていきたいと考える。

#### 【参考 Web ページ】

・防犯やセキュリティならばセコム株式会社 (<http://www.secom.co.jp/>)